

群馬県館林市の観光資源と牧場の関係から見る観光のあり方  
井野口 拓紀[東京農業大学]

畜産家は周辺の都市化、近隣住民の苦情、後継者不足で年々減少傾向にある。牧場も年々減少傾向にある。牧場が地域に存在することによって、その地域には悪臭などのマイナス面があるが、一方、様々なプラス面があり、地域活性に大きく貢献する可能性を秘めている。現在群馬県館林市の牧場では観光資源として活用されている場所は少ない。そこで本研究では、群馬県館林市の牧場を活用した観光資源を調査し、活用できる要素を調査した。

調査方法は、群馬県館林市の観光資源と牧場への観光の連携について評価した。評価項目はについて、「情報発信の場」「観光ルート」「食の販売」「酪農体験」の4つから評価した。その結果は、市の中心部に歴史を感じさせる地域資源があり、牧場の肉や牛乳をブランド化して、レストランやスーパーで提供する観光のあり方を提言した。

地域資源の魅力の発信について-国道120号を事例として-  
○鷹箸 泰雅 麻生 恵 町田 怜子

全国的な人口減少の到来、地方、農山漁村地域の過疎化によって地方創生の必要性が叫ばれている。そうした状況下で各自治体は地方活性化のために様々な策を講じている。沿道の土地利用や景観整備の改善もその策の一つで、その道路の利用者のニーズを的確に把握し、それに応じた観光資源の設置が求められる。

そこで本研究では「とんかつ街道」と呼ばれる国道120号沿道における土地利用や景観整備の在り方を理解し、観光客に「とんかつ街道」の魅力、国道120号の魅力ををより効果的に伝えるための手段を明確にした。また沼田市の魅力を引き立てるための更なる景観整備なども考えた。文献調査、現地調査、ヒアリング調査を実施した。

その結果、国道120号沿道や店舗においての、のぼり旗でのアピールやSNSでの宣伝を増やすことにより、観光客の増加が見られる。また沼田市の資源である河岸段丘をより多くの人に認識してもらうために、国道120号沿道の樹林地帯などの景観整備も提言した。以上のことから観光資源の発信、PRを意識した沿道の整備方法を在り方の提案をした。